

日本心血管理学療法学会「COVID-19 関連情報特別チーム」  
海外の専門情報

No.49

調査者	山本 周平、井澤 和夫、加藤 倫卓
情報ソースの刊行日	2020年5月14日
情報ソースの調査日	2020年5月15日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月20日
日本語タイトル	北イタリアにおける COVID-19 と心疾患で入院した患者の特徴とアウトカム
情報ソース	Characteristics and outcomes of patients hospitalized for COVID-19 and cardiac disease in Northern Italy. Eur Heart J. 2020 May 14;41:1821-1829.
情報のカテゴリー	心疾患全般
発信地域	ヨーロッパ(イタリア)
DOI	10.1093/eurheartj/ehaa388
URL	<a href="https://academic.oup.com/eurheartj/article/41/19/1821/5834516">https://academic.oup.com/eurheartj/article/41/19/1821/5834516</a>
要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象は、2020年3月4日～3月25日に入院した COVID-19 肺炎患者連続 99 例である。</li> <li>平均年齢は 67±12 歳、80 人 (81%) が男性であった。</li> <li>心疾患の既往歴のある 53 例と心疾患のない 46 例と比較した。</li> <li>心疾患の既往歴として、心不全が 40%、心房細動が 36%、冠動脈疾患が 30%であった。</li> <li>26%の患者が死亡、15%が血栓塞栓性イベント、19%が急性呼吸窮迫症候群、6%が敗血症性ショックを発症した。</li> <li>死亡率は、心疾患の既往歴を有する患者の方が他の患者と比べて高かった (36% vs 15%、相対リスク 2.35; 95%信頼区間 1.08～5.09)。</li> <li>入院中の血栓塞栓性イベント (23% vs 6%) および敗血症性ショックの発生率 (11% vs 0%) も心疾患で高かった。</li> </ul>
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>心疾患を併発し、COVID-19 を有する入院患者は、心疾患既往歴のない被験者に比し、予後が極めて悪い。</li> <li>心疾患の既往がある COVID-19 患者の理学療法では、血栓塞栓イベント、敗血症性ショックの発生に注意すべきである。</li> </ul>